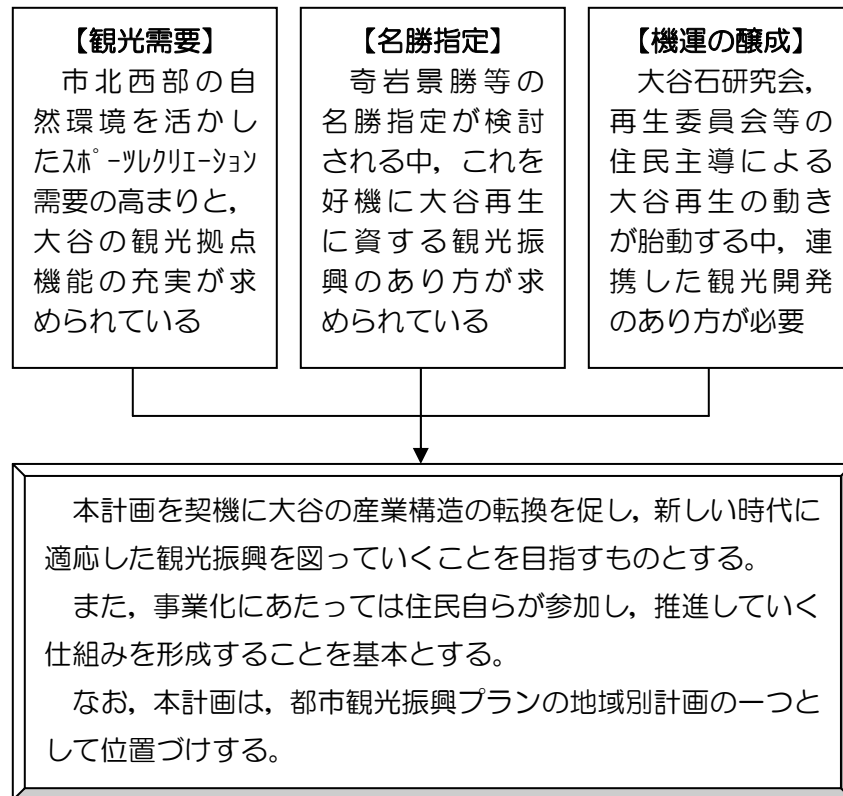


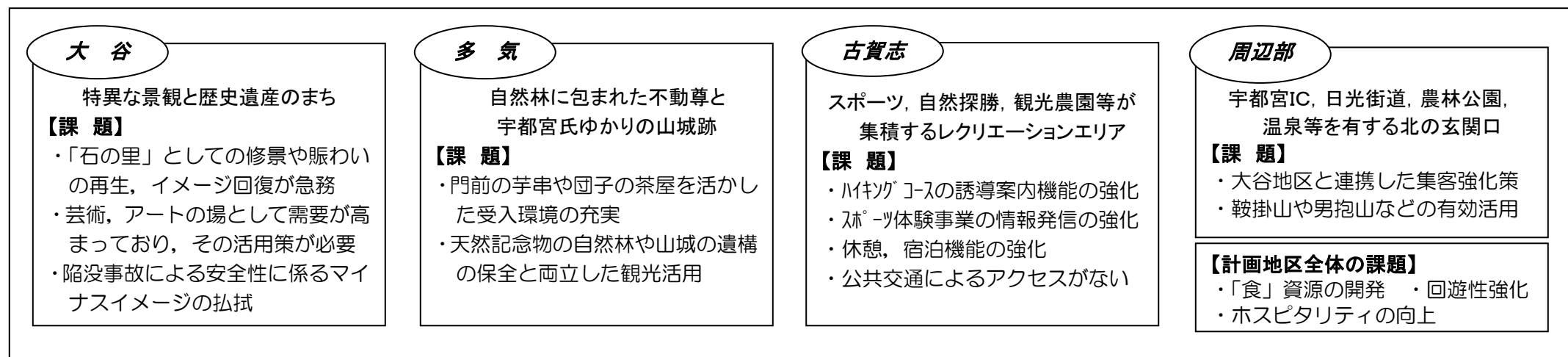
【背景・趣旨】



1 計画地区全体の現況

- ・H14の大谷石の出荷量は年間4万t（全盛期の1/20）
- ・観光入込数は約120万人（H8は約180万人）
- ・首都圏住民の「大谷」の認知度：18.3%（「餃子」は85.3%）
- ・都市計画関連法規の環境変化

2 エリア特性と課題



3 基本方針

- コンセプト … 「石の里・大谷」
- ゾーニング
「大谷観光指定地区」の設定
 - ・名勝指定が検討されている景観や文化財、県立自然公園などの貴重な景観、自然の保全
 - ・エリアの特性に応じた適切な観光施設機能の誘導
- 【大 谷】…芸術文化体験、産業体験、観光交流機能など
- 【多 気】…歴史的景観としての茶店機能など
- 【古賀志】…野外活動、農業体験、宿泊機能など
- 【全 体】…飲食、物販機能など
- 動線計画
 - ① 大谷・多気エリア
 - …散策周遊ルート ⇒「大谷発見散策ルート」
 - ② 大谷・多気・古賀志エリア
 - …自転車周遊ルート ⇒「サイクル大谷ルート」
 - ③ 計画対象エリア全体
 - …自動車周遊ルート ⇒「大谷ピックアップルート」
 - ④ 広域ルートの検討
 - …公共交通機関の誘致、広域連携事業の強化など
- ターゲット
 - ① 首都圏住民
 - ② 県内周遊客（日光、鬼怒川）
 - ③ 住民（市民、県民）
- 観光ルートの安全確保
 - ・集客施設の開発許可に係る安全評価基準の研究
 - ・埋め戻しに係る事業化の研究など

4 施策事業

推進方策	想定事業
I 石の里修景・開発事業の推進	・石の里にふさわしい景観の形成事業 ・奇岩景勝等の保全活用、知名度の向上 ・採石場跡や旧大谷公会堂等の観光活用の研究
II 石の里・大谷の再生に向けた住民意識の向上	・大谷石再発見事業の推進 ・住民による観光ボランティアの育成 ・新しい大谷石の活用方法の創出 など
III 芸術・アートを基軸とする文化事業の推進	・アトリエ、練習場の提供によるアーティストの誘導 ・パフォーマンススペースの整備 ・ワークショップなどの芸術体験事業の誘導 など
IV グルメ志向の大谷ブランドの創出	・地下熟成食材や地元果物を活用したレシピ開発 ・地下熟成機能を活用した倉庫事業の開発誘導 ・大谷ブランドの研究、事業推進母体の創出 など
V アウトドア・レクリエーション事業の推進	・古賀志山、多気山などのハイキングルートの整備 ・森林公園、サイクリングターミナルの機能強化 ・体験事業メニューのわかりやすい情報発信 など
VI 観光ネットワークの構築	・下野七福神、大谷七名山等による周遊機会の創出 ・計画地区の統一シンボルや案内誘導方式の確立 ・広域観光ネットワークの拠点機能の整備 など
VII その他	・多気城跡をめぐるストーリーの発掘、観光活用 ・特色あるイベントの充実強化や撮影誘致の強化 ・まちなか、農林公園と連携した大谷の情報発信など

5 実現方策

- 事業スケジュール
事業の目的、重要性、熟度から優先順位付け
⇒短期(~3y)、中期(~6y)、長期(~10y)
- 事業主体
民間、住民、行政の役割分担と協働の考え方
- 関連行政機関、部署の連携
大谷観光推進に係る行政機関、庁内関係部局との連絡調整機能の強化